

謙虚さを忘れず、従業員とその家族を大切にし 皆と楽しく仕事を続けていきたい

special interview



竹原 慎二

元WB A世界ミドル級
チャンピオン

立岡 智之
代表取締役



創業から25年にわたって土木・建設業を営んできた『立岡興業』。そこから住宅の基礎工事など、建築部門を分社化させるかたちで2019年に設立されたのが『ARCS』だ。現在は2社で連携を図りながら、幅広いニーズに対応している。本日は竹原慎二氏が立岡社長のもとを訪ね、インタビューを行った。

はじめに、立岡社長の歩みからお聞かせ下さい。

私は小さいころから、土建業の道に進むのが夢で、学業修了後は土木会社に就職。現場監督の見習いから始めて、夜は仕事の傍ら専門学校に行くという生活を送っていました。当時はまだ経験が浅く段取りが悪かったのですが、ベテランの職人さんに厳しく言われながら育てていただきましたね。やがて監督をしながら営業にも携わるようになり、社長の側で色々と学ばせていただきました。

——経営に関わることも？

はい。日本ではお金に関することは学校などではなかなか学べないもの。その点、私は社会に出てから学ぶことができて幸運だったと思います。経営者の方々ともお付き合ひさせていただく中で、欲をかかずに謙虚でいることの大切さも学びました。独立したのは今から25年ほど前。勤めていた会社が倒産してしまい、29歳で自分の手で事業をスタートしたのです。土木から始め、徐々に手掛ける範囲を広げてきました。2019年には業務を分け、新たに『ARCS』を設立。現在は『立岡興業』で舗装工事などの土木工事をメインに手掛け、『ARCS』では住宅の基礎工事など建築分野をメインにしています。ありがたいことにこのコロナ禍の中でも、仕事は切れずに続けられています。

——四半世紀事業が続くのはそうそうないことです。ここまで事業を続けられた要因は何だと思われますか。

従業員が頑張ってくれたからです。私自身はこれといって大した能力があるわけではなく、一人でできることは限られています。ですから、従業員たちがいてくれる。その会社だと実感しますし、人や仕事に恵まれたと感謝しています。私の口から「従業員を大切にしている」というのは口幅ったいのですが、やはり皆への感謝の気持ちと、だからこそ従業員たちやその家族の生活のために、という意識は常に持っています。逆に言えば、そういうことを考えると、安易に人員を増やしたりはできません。増えた分の従業員と家族を食わせていけるだけの器は、私にはありませんから（笑）。

——社長はとても謙虚な方ですね。会社を拡大したいと考える経営者さんも多いかと思いますが。

もちろん事業拡大していくことも良いことだと思っています。ただ私は、事業拡大を目指す中でそこに囚われ、自分にとって大事なことを見失いたくないな、と思うのです。それよりも仲間を増やして、皆と成長し、質にこだわった良い仕事をしながら、楽しく生活をしていきたいんですよ。ちなみに当社では5〜6年前からベトナム人の研修生も採用しています。普通は3年で帰国することが多いのですが、もう5年も勤めてくれている人もいて、周りから珍しいと言われますね。

——社長が従業員の皆さんをとっても大事にされていることが、よく伝わってきますね。最後に、これからの目標をお聞かせ下さい。今私は54歳ですが、50歳を過ぎてから



「一緒にお仕事をされている青柳専務（写真左）も建設業界で活躍してこられた方で、立岡社長とは子どものころの同級生だそうです。長いお付き合いだからこその阿吽の呼吸が感じられましたね。社長の謙虚な姿勢にも感銘を受けました！」 竹原 慎二・談

ゴールが見えてきました。コロナ禍など思いうようにいかないこともあります。結局はなるようにしかならないし、今やることをやろう、と思います。そして前述したように、楽しみながら仕事を続けていきたいですね。嫌々仕事をしていけば、やがては精神的に追い詰められてしまいますし、最後まで皆で楽しんで仕事ができれば、それが一番良いと思っています。

アークス
株式会社 ARCS
有限会社 立岡興業
東京都あきる野市小川東 3-6